

発行責任者
隠岐広域連合立
隠岐病院長
西郷町城北町 355



信頼される隠岐病院へ

院長 笠木 重人

■隠岐にお住まいの皆さまの目に、このところの隠岐病院はどのように映っているでしょうか。皆さまの隠岐病院に対する評価は、院内各所に設置してある「ご意見箱」や、郵便、電話、あるいはメールで届けていただいています。厳しいお叱りや、お詫び申し上げなくてはならないことも多くある一方で、お褒めいただくことも増えて参りました。お叱りいただいたことにつきましましては、必ず病院の改善につなげて参りますので、今後とも率直なご指摘をいただきたいと思います。またお褒め

いただいたことについては、それを励みにより良い病院にして参りたいと存じます。ご指摘いただいたことへの対応は薬剤科横の掲示板にお示しするようにしておりますのでご覧下さい。

■昨年一年の病院の状況を振り返りますと、特筆すべきは入院患者数の増加です。これまでにないほど多くの方に隠岐病院のベッドを利用していただきました。整形外科、産婦人科、眼科等手術を受けていただく患者様の数も増えて参りました。島内の開業医の先生方、診療所の先

生方とも良く連携して、もつともつと医療内容を向上して病院を利用していただけるように努力して参りたいと存じます。

■その一つとして今年には医薬分業という方法も取り組んで参ります(詳細は別記)。薬待ち時間の短縮や薬についての詳細な説明をはじめとして、お薬に関する医療サービス



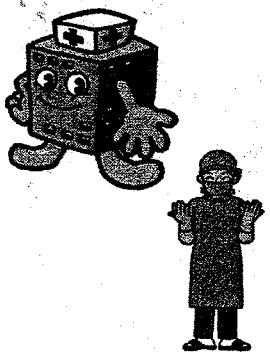
の向上が期待できます。医療事故の予防にもつながって参ります。皆さまへの十分な説明をした上で実施するように致します。

■次に、赤字経営からの卒業を目指して経営改革に努力しております。ご承知のように隠岐病院はこれまで多くの赤字を計上して運営して参りました。病院の赤字は皆さまの税金を使って町村が埋め合わせをしているわけで、病院の赤字は直ちに住民

負担につながっています。皆さまに納得していただけることに対しては今後とも税金を使わずに、可能な限り効率的な病院経営に努め赤字を減らして参ります。

■病院の施設整備についてですが、全面建て替えを願う一万九百人余の署名が集まってから二年近くが経過します。表面的に何らの動きも無く、どうなっているんだとお叱りの声をいただきます。皆さまのお気持ちを表現するようにしています。隠岐広域連合とも頻りに協議させていただきながら準備を進めていきますので今暫くお時間を下さいますようお願い致します。

■最後に、医療の内容のみならずいろいろな面で、隠岐にお住まいの皆さま方に信頼され利用していただける隠岐病院づくりを目指しますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



03クリスマス会



Merry Christmas

去る12月22日隠岐病院ロビーにおいて看護師会主催のクリスマス会が行われました。今年は院外から、都万村のアマチュアバンド「ハル」のみなさんが、クリスマスの日を病院で過ごさなければならない患者さまに、少しでもクリスマスの雰囲気を楽しんでいただこうと、すばらしい歌と演奏を披露しました。



▲眼科・長谷川先生

今年もサンタ役はただき!!



▲3階ナースによる手話を交えた『世界に一つだけの花(歌?)』



◀内科の石原先生のトランペット演奏はすばらしい



▶全員サンタに扮して演奏の「ハル」のみなさん



▲ズン・ズン・ズン
ズンドコ〜♪
きよしのズンドコ節の
銭太鼓です



おはようございます

医事業務を受け持つニチイ学館でございます



▲明るく、さわやかに…今日はちょっと緊張気味

ひまわり

この度、隠岐広域連立隠岐病院の医事業務を受託させて頂きました。ニチイ学館でございます。

我が国の経済環境は、依然として厳しい状況下にあることをご承知のとおりです。我が社は、創業以来、全国の支店網を軸に、医療機関向けの医事業務代行ならびに経営サポートを行っております。また、介護事業におきましても、在宅介護、通所介護を中心に事業展開を行っております。質の高いサービス提供の実現のため、全国に設置した教室において、医療事務講座、ホームヘルパー講座を中心に、技量の優れた人材の養成に努めております。

医療機関におかれましては、医療制度改革によって、病院を取り巻く環境は厳しさを増しております。また、住民の皆様が病院に対する意識も一段と複雑・多様化しています。

こうした変革期を迎えた中、七月に入院部門、十二月には外来部門を受託させていただいております。

会社はもちろん、隠岐病院スタッフ全員で、その責務を全うすべく一層の努力を重ね、ご期待に添うよう努めてまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ニチイ学館松江支店

支店長 石富 充

入院・外来スタッフ一同、明るく、さわやかな応対を常心がけております。お気づきの点等ございましたら、お気軽に声をおかけください。

医事業務の

委託について

組織体制の見直しを行う中昨年より、医事業務を委託しています。これにより、専門性の向上が図られ、また委託業者が有する医療情報やノウハウ、分析力の経営への活用等が期待できます。

「医薬分業」についての

お知らせ

①

■隠岐病院では今年夏頃までには医薬分業を実施する予定です。医薬分業とは何か、「まめなかの」の紙面を利用して何回かに分けてご説明します。



Q1 「なぜ医薬分業をするのですか？」

これまで我が国では、外来患者様のお薬について、患者様を診察した病院や診療所が作ってお渡ししていました。この場合、医師の処方間違いが見逃されやすくなることや、医師が利潤の大きなお薬を使いがちになり乱診乱療につながる、などなどたくさん批判がありました。お薬についてもっと説明が欲しい、もっと質問したいという患者様の要望が、医師の多忙を理由に十分にされていない等の批判もありました。このような国

民の医療批判を受けて国は医薬分業を我が国に定着させようとする政策に掲げ推進して来ています。

Q2 「医薬分業とはどんな制度ですか？」

医薬分業とは、外来患者様のお薬について、医師（病院・診療所）と薬剤師（調剤薬局）とが役割分担する制度です。もう少し具体的に説明しますと、病院や診療所では「院外処方箋」という医師が患者様に使っていたきたいお薬を記載し

た文書をお渡しします。外来患者様にはご希望の「調剤薬局」（保険薬局とも言います）に行っていたいただき、そこでお薬を受け取ってもらおうという制度です。調剤薬局では薬剤師が、お薬を作るだけではなく、お薬の飲み方の丁寧な説明や患者様からの質問にお答えします。お薬が出来るまでの待ち時間も短くなります。医療の内容が向上する結果となります。

Q3 「では、病院の薬剤師さんはどうするのですか？」

病院の薬剤師は、外来患者様のお薬を作る仕事から解放されるため、薬局を出て病棟に上がり病棟で入院患者様のお薬や注射・点滴のお世話をする事が出来るようになります。この結果、入院患者様の医療安全対策が向上します。

あとがき

先日、テレビトーク番組に直木賞作家のYさんが出演されていて、その言動が非常に好感のもてるものでした。その生きざまを彷彿させるものでした。以前、同じ直木賞作家の同じような番組で別な作家が出演されていました。冷たい話し方、傲慢な態度、見ていると気持ちに悪いものではありませんでした。それにしても、同じ優秀な才能を持ちながらこの違いはなんなのでしょう。これが人柄の違いというものでしょうか。

世間には数多くの病院があります。やはりそれぞれの性格をもっています。隠岐病院は、人柄のいい病院にしたいものです。

皆様の当院に対するお便り、ご意見をお待ちしております。



つづく...

